

今月の題字
田中美恵子さん

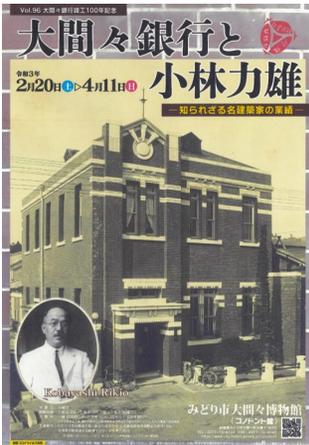
(桐生市相生町)

大間々駅のトイレ掃除に参加して丸4年、200回を超えた田中さん。本業はハウスクリーニングの株式会社みーちゃん本舗の代表。おそうじで幸せを呼び込んでいます。

虹の架橋「検索」で、インターネットからでもご覧いただけます。

大間々博物館第九十八回企画展
『大間々銀行と小林力雄』

今年、旧大間々銀行（現みどり市大間々博物館）のレトロな洋風建物が完成して、ちょうど百年目を迎えます。明治十六年に群馬県で最初の私立銀行として開業した大間々銀行は、大正十年に本店を新築しました。あれから百年、町の移り変わりを見守ってきた建物は、大間々のシンボルとして多くの人に親しまれています。



この建物は、「木骨石積みマイル張り」と呼ばれる構造で、レンガ造りに比べ、地震に強い木造の骨組みの外側に耐火性に優れた大理石張りと、

谷石を積み、さらにその外側に赤茶色のタイルを張った斬新なものでした。さらに窓廻りや軒廻りなどの外観には御影石を使っており、レング風タイルの上品さともあいまって洗練された大正ロマンの様式美を醸し出しています。

大間々銀行と小林力雄
～知られざる名建築家の業績～
大間々博物館（コノドント館）
2月20日（土）～4月11日（日）
*新型コロナウイルス感染拡大の状況により予定が変更になる場合があります。



いい話
(文責・菊) 《307》

小耳にはさんだ

神戸に住む友人からドキュメンタリー映画「1/4の奇跡」から「光彩ひかりの奇跡」まで「天から見れば」を勧められ、ネットで観ても感動しました。「光彩ひかりの奇跡」に登場する寺田のり子さんはカラー心理セラピストとしてたくさんの方に幸せを届ける活動をしていました。が末期がんと診断され余命宣告を受けました。さらに片眼も失明、失意のどん底に落ちた時に養護学校の先生だった山元加津子さんの講演会に参加

『ありがとう』

し、山元先生の教え子だった笹田雪絵さんの「ありがとう」という詩と出会いました。雪絵さんは中学二年の時に目が見えなくなり、手足が突然動かなくなると「MS（多発性硬化症）」という難病と闘いながらも多くのエッセイや詩を遺し、惜しまれながらこの世を去りました。

見よう見ようとしてくれて私を喜ばせてくれたんだもん。いっばいいろいろな物。素敵なものを見せてくれた。夜の道も暗いのにがんばってくれた。足もそう。私のために信じられないほど歩いてくれた。一緒にいっばいいろいろなところへ行つた。私を一日でも長く、喜ばせようとして目も足もがんばってくれた。なのに、見えなくなったり歩けなくなったり。とき「なんでよー」なんて言っただけ。はあんまりだと思っただけ。今まで弱い弱い目。足がどれ

だけ私を強くしてくれただけ。だからちゃんと「ありがとう」って言うの大好きな目、足だからこんなに弱いけど大好きだから「ありがとう。もういいよ。休もうね。」って言うてあげろ。多分誰よりもうーんと疲れていると思うので・・・。

十一年前、大間々で開催した山元先生の講演会と映画の感動が蘇りました。この映画はネットでもご覧いただけます。ことごとく。祖父が植えた父から子孫へ紅椿。昔のアルバムを捨てる前に、残しておきたい写真やパソコンにデータ保存しました。百年近く前からデジタルカメラを使うまでの千枚近い写真を保存しました。六十年も昔、我が家の庭で祖母が並んで写っている写真がありました。セピア色の写真には今と同じ所に椿の木が写っています。椿の木は我家の歴史を静かに見守りながら春になると美しい花を咲かせています。祖父から父へ、そして私へ。今、椿の木の周りで孫が縄跳びをして遊んでいます。平和な時代が続くために、自分は何をすべきかを考えています。

世界一小さな
定利屋
トイレ美術館

今月の絵《307》
森矢かおるさん『華』



森矢かおるさんと出会ったのは十年前。武蔵野美術大学大学院生だった森矢さんは「わたらせアートプロジェクト」の一員で、大間々で自身の日本画を展示する場所を探しに來たのでした。三丁目の旧野口材木店を紹介し、個展は大好評でした。個展の後、『華』と題する絵をプレゼントしていただきました。岩絵具や箔を使った一番好きな絵だったので大感激でした。森矢さんは今、国立劇場で美術を担当しているそうです。日本一の大舞台で才能を発揮している森矢さんの絵を足利屋でご覧ください。

靖ちゃん日記

令和三年二月十七日（水）
日本を美しくする会の第十四回総会にリモートで初参加した。一昨日、ZOOM機能の使い方を熟知している九州の廣瀬さんと伊東の白鳥さんに操作法を習った。画面に映る二人の笑顔に助けられ、存から、細かい使い方を覚えてきた。今日の本番では、全国各地で清掃活動を統括している代表が七十人も参加した。阪神の田中義人さんが「トイレ掃除をする時は、汚水の原因を調べ、相手を傷つけないように汚水を落とす」という話を聞いた。人間関係にも通じると思った。「掃除を通して心の荒みをなくし、世の中を良くしよう」という活動の目的が理解できた。全国の掃除仲間との情報交換も参考になり、大間々駅の掃除の話も発表したりリモート会議は初体験だった外、やってみたら不安が消え、病みつきになりそう。トイレ掃除も初体験の時とは、母だ、た外病みつきに存した。もっ若い時の初体験は忘れた。

第三百八号は令和三年四月一日（木）発行予定です。

♡ やつちゃんの似顔絵提供：ひさかさん